

校長通信 (10月号)

October / 1st / 2025 / VOL 037

後悔のない人生なんてない

あるクラスで授業をしている時、単元のテーマで「過去を振り返る」というものがありました。生徒たちは中学時代の当時の自分を振り返り、自戒を込めて、中学生に向けたアドバイスを英語でプレゼンテーションしようというもの。もっと時間を有効に使えばよかった、もっと部活動に本気で打ち込めばよかった、友達ともっとたくさん話して仲良くなればよかった、失敗を恐れずにチャレンジすればよかったなどなど。生徒たちが書いてくれたライティングを読みながら、ふと思いました。「後悔」ってそもそもいけないことなのかと。

そもそもですが、「後悔」とはどういう意味なのか。「後悔」とは「してしまったことを後になって悔やむこと。」(日本国語大辞典)ということで、「悔やむ」という感情を伴っています。つまり、過去のことを失敗として捉えており、それに対する残念な気持ちや恥ずかしいという思いも込められていると考えられます。同じような表現で「反省」がありますが、これは「振り返って考えること、過去の自分の言動やあり方に、間違いがなかったかどうかを、よく考えること」(日本語大辞典)であり、過去から学び、未来の自分の行動改善に繋げていこうという前向きな姿勢が言葉に込められています。授業の単元は、後悔よりも反省という視点を大切にしているということだったんでしょうね。

後悔よりも反省。とても大切な考え方だと思います。とはいえ、自分の中に後悔をなくすということは非常に難しいことであると同時に、不自然なようにも思えるのです。後悔のないように生きろと言っても、後悔というのは自然発生的に人生について回るものではないかと思っています。むしろ後悔があるから、人生ってより豊かに、カラフルになっていくのではないかとも思うのです。

僕の話を少し。浪人してまで入った大学生活を思い出すと後悔ばかりです。もう一度1年生からやり直したいと今でも思います。大学で主体的に学んでいくための心構え、ゴールの明確化、勉強以外の自分の取り組み、部活動、大学卒業後のなりたい姿、30歳、40歳の自分をより具体的に描いていくなど、なんて無駄な時間を過ごしてしまったんだという後悔が消えることはありません。さらに、社会人になってからも、あの時なぜもっと頑張りきれなかったんだとか、なぜもっと慎重に考えなかったのか、なぜ正直に誠実に伝えていかなかったのか、なぜもっと生徒たちと向き合ってきたんだという後悔。そして、自分が大切に思っている人や尊敬している人に対し、なぜもっといろんなことを聞いて来なかったのか、なぜ一緒にいる貴重な時間をもっと大切にできなかったのか、なぜ期待に応えることができなかったのかなど。この後悔は、僕が一生背負っていくものであり、反省などという簡単な言葉で片付けることなどできません。

でも、こうした後悔を背負うことは、それを直視することの辛さがある一方で、自分が通った道でもあり、受け入れるべき自分の人生の一部なのだという思いがあります。残念ですし、恥ずかしいですし、みっともなく、哀れだと思います。ですが、それも自分。ダメな自分を受け入れてあげることも必要なのだと思うのです。日本人は自己肯定感が低い人が多いと言われますが、真面目さゆえに、ダメな自分を許せない、あるいはその自分をつくった周囲や社会に責任があるという他責的な考えに陥りがちです。そういった人は、すぐに周囲や環境への文句を口にしたり、人のせいにして自分の言動を棚に上げるようになっていきます。その根底には、この自分を受け入れること、ダメな自分も認めてあげることが大切です。そして、そんな自分に関わってくれた人たちに対し、謙虚に感謝すること、ありがとうございましたと心で伝えられるようになることがとても大切なのだと思います。僕も後悔ばかりで、後悔に彩られた人生ですが、そんな自分に関わってくれた方々、迷惑ばかりかけてしまった皆さん、失望させてしまった皆さんに対して、申し訳ない気持ち以上に、ありがとうという気持ちを持って生きています。後悔の向こう側には、感謝の気持ちにつながる道があるのかもしれない。というか、これが反省ということなのではないでしょうか。面白いですね、言葉って。

学校の財産

9月22日、懐かしい顔を見ました。御殿場西高校を5年ほど前に卒業した井上柚子葉さんが来校してくれました。かつて生徒会長を2期連続で務め、学校の魅力かを全力で進めてくれました。当時、僕は副校長で、右も左もわからない状態でしたが、なんとかして学校をもっと明るく、楽しく、熱い場所にするんだと一人で突っ走っていました（暴走気味に）。毎朝、校門で井上さんと挨拶運動をしながら、どうやったら御殿場西高校がもっと魅力的な学校になって、生徒たちが学校生活を充実して過ごせるのかを、ああでもない、こうでもない何度も何度も話しました。コロナ禍の真っ只中を経験し、高校生活も制約を余儀なくされましたが、それでも学校を盛り上げていこうと誰よりも頑張ってくれました。今の御殿場西高校があるのは井上さんをはじめとする卒業生たちがいてこそです。そんなすべての卒業生たちのホームが、御殿場西高校なんです。いつでも帰ってきてください。



もう収集がつかません

「収集がつかない」という表現はネガティブな文脈で使われがちですが、探究学習って収集がつかなくあるべきではないかと思っています。2年探究ゼミは生徒たちがそれぞれのプロジェクトを進め、広げ、深めていく学びです。2学期からは校外研修も増えていくことになり、同時多発的にいろんなことが繰り広げられることとなります。先生がすべて管理なんてできるわけありません。生徒がどんどん推し進めようとするそのパワーに委ねていくしかありません。そんな収集のつかない探究学習が、御殿場西高校が目指す学びの形です。



30年前の留学生

9月9日、ダニエル・グッドフェローさんが来校。カーディニア校の卒業生で、30年ほど前御殿場西高校に1年間留学したことがあります。というか、30年ぶりに学校に戻って来られるってすごくないですか。公立高校出身の僕には考えられません。私学のいいところですよ。どんなに時が流れても、どんなに変わってしまっても、ここが生徒たちの母校であることは変わることはありません。すべての卒業生の皆さんにとって、今いる在校生たちにとって、これから入ってくる未来の生徒たちにとって、御殿場西高校はそんな場所であり続けたいと思います。



保護者の皆様へ

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。2学期がスタートして1ヶ月、生徒の皆さんは学校で様々なことを学び体験し、時には失敗や悩みも抱えつつも、日々成長をしていると感じます。先日、学校を訪れた外部からのお客様が、校内ですれ違う生徒たちを見て「こんなに挨拶がしっかりできる学校初めてです」と言ってくれました。やらされている挨拶ではなく、自然体で声をかけてくれる生徒たちの姿を見て、そう感じてくれたのだと思います。そんな生徒たちが心から誇らしく感じた瞬間でした。今学期もよろしくお願いします。

〈10月の行事予定〉 10月1日（水）探究学習中間報告会
10月14日（火）静岡銀行主催キャリアイベント
10月16日（木）パプアニューギニア交流プログラム
トラッシュアート作成
10月26日（日）第59回創立記念日

OCTOBER

2025

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	